

# ハウス立茎アスパラガス栽培への自動かん水の導入に向けて (檜山農業改良普及センター)

## 背景

### 【厚沢部町の概要】

○耕地面積3,576haで、水稻、畑作および園芸の複合経営が主体となっており、特に施設野菜であるハウス立茎アスパラガスは当地域の主要野菜品目である

○アスパラガス栽培は、平成12年から始まり高収益作物として定着し、令和4年は檜山本所管内の面積は約19haである

○近年は、後継者不足を背景とし、農家戸数減少と経営面積拡大が急速に進んでいる

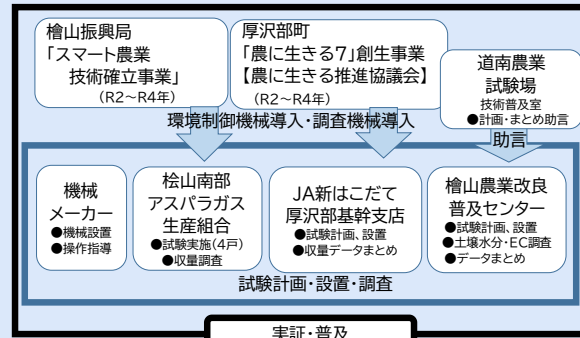
### 【地域の課題】

○近年、複合経営による労働競合で、かん水管理が不十分になり収量低下の要因となっている

○解決策として令和3年6月から、厚沢部町で「自動かん水システム」導入の取り組みが始まった

## 普及活動内容

○厚沢部町、生産組合、関係機関と連携し「自動かん水システム」導入に向け取り組んだ



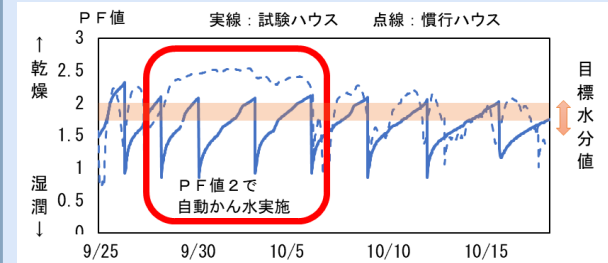
○土壌水分に応じた自動かん水および液肥による追肥の実施ができるようシステムの定着、普及を目指して活動



## 普及の成果

### 【具体的な成果】

○自動かん水導入により土壌の過乾状態が少なくなった



○自動かん水で労働時間の短縮 (100坪当たり)

農業者	自動かん水ハウス	慣行ハウス	対慣行比
H氏	0~5分	15~20分	0~25%
I氏	5分	60分	8%

※慣行ハウス見回り時間含む

### 【成果のポイント】

○関係機関、農業者との連携で意見を反映しながら取り組めた

○令和4年度は年間をとおした検討により、土壌水分センサー値に応じた自動かん水および追肥体系の確立を目指す